

令和8年度第1回 海老名市・県フルインクルーシブ教育推進会議【議事概要】

1. 開催の状況

- (1) 開催月日：令和8年5月11日（月）15:00～16:30
- (2) 開催場所：海老名市役所 401 会議室
- (3) 出席者：15名

2. あいさつ

- 伊藤教育長（海老名市教育委員会）より、協定締結から3年目を迎え、いよいよ具体的な取組が進むことへの期待と、教育支援コーディネーター（以下、教育支援 Co）を専任化していくための県教育委員会による市内全19校への後補充非常勤の配置により、すべての子どもたちを包摂する支援体制のさらなる充実を期待している旨のあいさつがあった。
- 花田教育長（神奈川県教育委員会）より、これまで2年間の啓発活動を中心とした取組を経て、全校への後補充非常勤の配置により、教育支援 Co が動きやすくなった校内支援体制への期待と、昨年度の調査研究部会の「提言」を基に議論を深めて、すべての子どもが学べる環境を整備していきたい旨のあいさつがあった。

3. 報告

- (1) 「5年間の取組計画」の見直しについて【資料1】
 - 事務局より、令和8年度の取組として加筆した部分を中心に、報告がなされた。
- (2) 令和8年度 対話の場について【資料2】
 - 事務局より、令和8年度の主な取組について、報告がなされた。
- (3) 令和7年度 有識者による外部評価について【資料3】
 - 事務局より、昨年度の外部評価について、資料3に基づき、報告がなされた。
- (4) フルインクルーシブ教育推進アドバイザー派遣事業について【資料4】
 - 事務局より、資料4に基づき、報告がなされた。
- (5) 海老名市フルインクルーシブ教育推進協議会の年間計画【資料5】
 - 事務局より、資料5に基づき、書面報告がなされた。

4. 議題

- (1) 令和8年度の主な取組計画について
 - ① 調査研究部会について【資料6、6-2】
 - 事務局より、資料6、6-2に基づき説明がなされた。
(主な意見)
 - ・ 調査研究部会には、昨年度と同様、大胆な提言を期待している。特に、フルインクルーシブ教育を推進する上で、学級の人数や教員の配置など、これまでタブー視されてきた部分にも踏み込んだ議論を望んでいる。
 - ・ 全小・中学校に配置された教育支援 Co については、その効果を明確に示す必要がある。教育支

援 Co が直面する悩みや工夫している点を、連絡会等の横の連携を通じて共有し、実践事例として示してほしい。

- ・ 教育支援 Co の活動を通じて、不登校や支援を必要とする子どもたちが学校生活の中で救われ、楽しく過ごせるようになったこと等、具体的な成果の積み重ねを期待する。また、教育支援 Co の配置による校内支援体制の進展について、成果をデータとして提示できるようにしていく必要がある。

② 令和 8 年度 教育支援 Co の取組について【資料 7】

- 事務局より、資料 7 に基づき説明がなされた。

(主な意見)

- ・ 海老名市が求める教育支援 Co の資質・能力や課題について、県立総合教育センターと具体的な協議を進め、センターが実施している教育相談 Co 研修講座なども参考にしながら、海老名市にとって有効な手立てを共に検討していきたい。
- ・ 校内支援体制においては、管理職が学校経営の視点からイニシアティブを取り、教育支援 Co がその中で最大限に活躍できるような体制を整備することが重要である。

③ 就学相談について【資料 8】

- 事務局より、資料 8 に基づき説明がなされた。

(主な意見)

- ・ 特別支援学校だけでなく、地域の学校についても早期からの情報提供が重要であり、そのことが保護者の安心材料となる。
- ・ 特に幼児期においては、子どもの状態はめまぐるしく変化するため、障がいの状況を考慮に入れながら、適切な就学先の決定に繋げていく必要がある。
- ・ 新たな環境整備が必要な子どもについては、早期に情報を把握して事前準備を進めることで、保護者が「特別支援学校でなければ通えない」という固定観念を払拭していきたい。
- ・ 就学支援委員会は、単に就学先を決定する場ではなく、子どもにとって最適な環境や必要な支援について、専門家が助言を行う話し合いの場となるべきである。

5. その他

- 今年度、台形の机をモデル的に導入した市内小学 5 年生の授業の様子などが画像で紹介された。引き続き、フルインクルーシブ教育を進めるために、環境面の整備にも取り組んでいく旨、伊藤教育長から発言があった。

6. 事務連絡

- 第 2 回推進会議は、8 月 26 日 (水) 14 : 30 ~ 16 : 00、県庁本庁舎大会議場で開催予定

以上